

科学教育のグローバルデザインと国際共同課題研究の全国普及を目指すシステムづくり

◎これまでの成果

平成14年度から4期  
18年間のSSH研究開発

- ・課題研究の充実
- ・高大連携の発展
- ・国際化の推進

- ① Japan Super Science Fair の継続開催  
生徒の発表の場、科学交流の場として重要な機会を内外に提供してきた。
- ② 海外理数教育重点校とのネットワーク  
世界トップクラスの学校の集団<sup>(\*)</sup>の中での中心的役割を果たしてきた。
- ③ 国際共同課題研究の取り組み  
国内連携校<sup>(\*\*)</sup>とともに充実した取り組みを行ってきた。

国際共同課題研究

- ・海外の生徒と研究に関する日常的な意見交換と共同で研究を進める経験
- ・広い視野や異文化間での対応力を育成
- ・国際間でのリーダーシップの養成
- ・科学学習における英語力の伸長

◎第5期SSHで目指すこと

これまで18年間のSSH研究開発の中で、**国際科学教育の有益な手法の開発**と、**海外理数教育重点校のネットワーク**の中で重要な位置を構築してきた。  
これらを**全国のSSH校へ普及**させ、我が国における**国際科学教育の発展**に寄与する。それにより、**国際舞台で活躍する優秀な人材を育成**する。

◎中心となる4つの柱

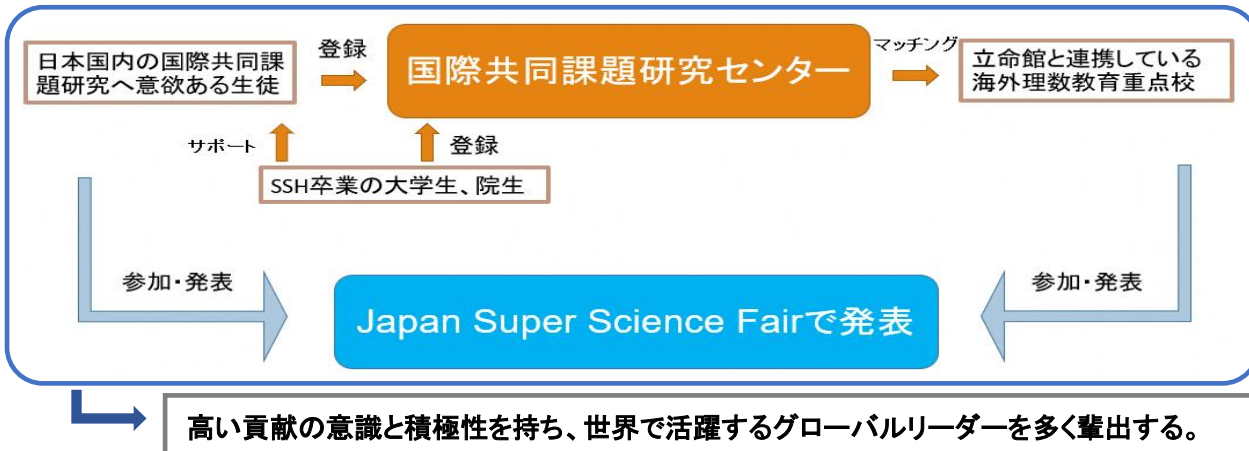
(I) これまでの研究開発で得てきた国際科学教育手法の全国への普及と国際ネットワークの共有  
核になる学校での協議、シンポジウム、学習会、教材開発等。

(II) 「国際共同課題研究」の普及を目指す取り組みと、「国際共同課題研究センター」設置への取組  
これまでの国際共同課題研究の継続、深化。  
希望する国内生徒を募集。海外生徒とマッチング。  
国際共同課題研究センターの設置準備。

(III) 中高大連携による課題研究の深化と、課題研究による社会協創意識の醸成  
中高大連携による、課題研究指導方針協議会。  
大学による高校生課題研究への支援の充実。  
高校生による中学生課題研究への支援。

(IV) Japan Super Science Fair (JSSF) の継続的開催による、高校生の国際的な発表機会の保障、ならびに海外理数教育重点校との協力関係の強化  
Japan Super Science Fair 継続開催と内容充実。  
海外理数教育重点校の動向調査。  
国内校へのネットワークの共有。

◎国際共同課題研究センター



(\*) Korea Science Academy of KAIST(韓国)  
Mahidol Wittayanusorn School(タイ)  
NUS High School of Mathematics and Science(シンガポール)  
Illinois Mathematics and Science Academy(USA)  
John Monash Science School(オーストラリア)  
Camborne Science & International Academy(UK) 等

(\*\*) 福島県立福島高等学校/清真学園高等学校/早稲田大学本庄高等学院  
筑波大学附属駒場高等学校/東海大学付属高輪台高等学校  
東京工業大学附属科学技術高等学校/奈良女子大学附属中等教育学校